

## 令和6年度「英語発信力育成事業」

「英語発信力育成事業」は、中学校区(小・中学校)で研究推進委員会を設置し、校種間連携を通して、児童生徒の英語による発信力向上をねらいに、令和元年度から行っている事業です。令和5年度から引き続いて、本年度も長浜市立西中学校区で研究を進めていただきました。今回は、研究推進委員会、授業研究会の様子についてお伝えします。

## 研究推進委員メンバー

【長浜小学校】A 教諭・B 教諭

【西中学校】C 教諭・D 教諭

※ A教諭には第3回研究推進委員会で、C教諭には第4回研究推進委員会で授業を公開いただきました。

## 第1回研究推進委員会 ～令和6年度研究テーマの決定～ (6月18日実施)

英語による発信力を育成するために、「適切な単元目標の設定」「スモールトークの充実」「学習者用デジタル教科書や学習支援アプリの効果的な活用」「自己調整力の育成」の4つについて、共通実践していくことを確認し、テーマを決定しました。

【令和6年度研究テーマ】

## 発信力を育成する系統的な学び ～児童生徒のICT活用による自己調整を通して～

## 第2回研究推進委員会 ～1学期の実践交流～ (8月9日実施)

第2回の研究推進委員会では、決定したテーマに基づいて、1学期の実践を共有しました。長浜小学校のA教諭は、スモールトークを通して、「反応力」「質問する力」の育成について、西中学校のC教諭は、スモールトークで話した内容を書く活動を通じた「書く力」の育成について取り組まれました。

## 【長浜小学校の実践】

A教諭は、昨年度からスモールトークを継続的に行い、相手の反応を見ながら、質問する力の育成を図ってこられました。6年生の1学期末に実施されたパフォーマンステストでは、“I like ～.”と自分の好きなことを述べた後、“Do you like ～?”と、聞き手に質問することができた児童もおり、自発的にやり取りする姿が見られました。(写真1)



(写真1)



(写真2)

## 【西中学校の実践】

C教諭は、生徒がスモールトークに取り組んだ後、自分の話した内容を、タブレット端末に英語で書く活動を定期的に行っていました。

言語面においてより正確性が高まるよう、生徒が書いた内容を学級全体で共有し、共通した間違い等を確認されました。(写真2)

### 第3回研究推進委員会 ～公開授業および授業研究会（10月15日実施）～

長浜小学校での公開授業の様子を紹介します。

単元名：Unit4 Let's see the world.(全8時間)  
(NEW HORIZON Elementary English Course 6 東京書籍)  
単元の目標：自分の行きたい国の魅力を伝えるために、行きたい国とそこでできることについて、伝えることができる。また、行きたい国とそこでできることについて、例文を読んだり、それを参考にして書いたりすることができる。  
本時の目標：〇〇に自分の行きたい国を知ってもらうために、「行ってみたい国ガイドブック」の内容を書くことができる。(7/8時間)



長浜市立長浜小学校  
授業者：A教諭

#### 【A教諭の工夫】

- ・より「自分事」として学習が進められるよう、本時の目標を工夫されました。「〇〇に自分の行きたい…」とし、あえて「誰に対してか」を明記しない形で設定され、自分の行きたい国とその場所について紹介したい相手を児童が選べるように工夫されました。
- ・単元の目標を達成するために、児童が伝えたいと思った語彙や表現がいつでも確認できるように工夫されました。音声付きの英語表現集を学習支援アプリで作成され、公開授業では、タブレット端末上の英語表現集を見て、音声を確認し、自分が話した内容を書く児童が数多く見られました。
- ・児童と単元の目標を共有され、「何ができるようになっているとよいか」を明確にされたことで、児童の英語で発信したいという意欲が高まるように工夫されました。また、「思考力、判断力、表現力」の育成を図れるよう、年間を通じて、思考し表現する活動を粘り強く行われました。

### 第4回研究推進委員会 ～公開授業および授業研究会（11月8日実施）～

西中学校での公開授業の様子を紹介します。

単元名：Unit6 A Speech about My Brother(全11時間)  
(NEW HORIZON English Course 1 東京書籍)  
単元の目標：長浜小学校の5、6年生に西中学校の先生を紹介するために、他者を紹介する英文を読み、読んだことの内容を参考にして発表できる。  
本時の目標：長浜小学校の5、6年生に向けて、西中の先生を紹介する発表の内容をよりよいものにする。ことできる。(10/11時間)



長浜市立西中学校  
授業者：C教諭

#### 【C教諭の工夫】

- ・当該単元で扱う言語材料を、生徒が何度もやり取りの中で使えるよう、スモールトークのトピックを工夫されました。そのため、単元終末では、自ら発した英語の間違いに気付いて、自分で修正することができるようになった生徒の姿がありました。
- ・「誰に」「何を」「何の目的で」「どのような内容を」伝えるのかを明確に設定し、相手意識がもてるように単元目標を工夫されました。英語でどのように伝えるとより伝わるのか試行錯誤しながら言語活動に取り組む生徒の姿が見られました。
- ・言語面・内容面で自らの学習を振り返り、既習事項を関連付けたり組み合わせたりするだけでなく、新しい言語材料に注意を払うよう丁寧に指導をされました。その結果、生徒は自らの間違いに気付くだけでなく、中間交流の際には、お互いに指摘し合い、表現をブラッシュアップすることができていました。

### 研究発表会 ～研究推進委員による発表～

#### 【研究を振り返って】

- ・小中接続をスムーズに行うには、どちらの校種においても、「CAN-DOリスト」を指標にして、単元目標および単元計画を考えることで、充実した言語活動につながる。
- ・校種を越えてお互いの授業を参観し、児童生徒の状況やこれまでに学んだことを把握した上で、共通実践を考えることが重要である。

#### 【今後の展望】

- 中学校区で共通実践を考え、スムーズな小中接続、小中連携を図る。
- 現小学6年生が中学校に入学後、英語学習状況がどのように変化したかを知るための授業参観等を実施する。
- 長浜市版CAN-DOリストの効果的な活用をする。

(研究推進委員作成の発表スライドより)